

532 中央大学経済学会

〔『法学新報』第29巻1(326)号 大正8年1月1日〕

○中央大学経済学会 中央大学経済学会は去る十二月七日中央大学に於て本学年入学生歓迎会を兼ねて第一回例会を開催せり会衆百七十余名近来になき活気の横溢せる会合なり是より先き会長桑田熊藏博士より「都会に於ける人口集中の原因及び結果に就きて論ず」との論題を得て此会合の席上各会員研究の結果に係る討論演説あり会は午後六時より五号教室に於て行はる開会の辞に於て成相幹事は今次の世界的戦乱の原因に付きては国際的意味に於ける経済的事情か最も重大なる關係を有し従て戦争の終結に因る戦後経営の問題は先づ経済上適切に吾人の物



演説終るや会長桑田博士の批評談あり博士は此人口の都市集中の防衛手段として工業方面よりも寧ろ農業的方面よりして之か解決を与ふるを以て策の得たるものと論せらる即ちオツペンハイマーの所謂都人士の農村帰耕を提唱し事実問題の例として露国の「マイル」制度に付き概論せられ本問題を我国に付きて見るに一部農学者の云ふ如く爾く憂慮すへき状態ならざるも将来必然的に恐るへき結果を生すへければ今日に於て之に対し国家政策を樹立し置くの必要ありと断せらる茲に於て本問題に対する研究を終へ會員の小話に移り九時を過ぎて久保田幹事の閉会の辞に依り散会す乃ち校庭に出つれば月中天に冴えて断雲頻りに去来せり（委員報）